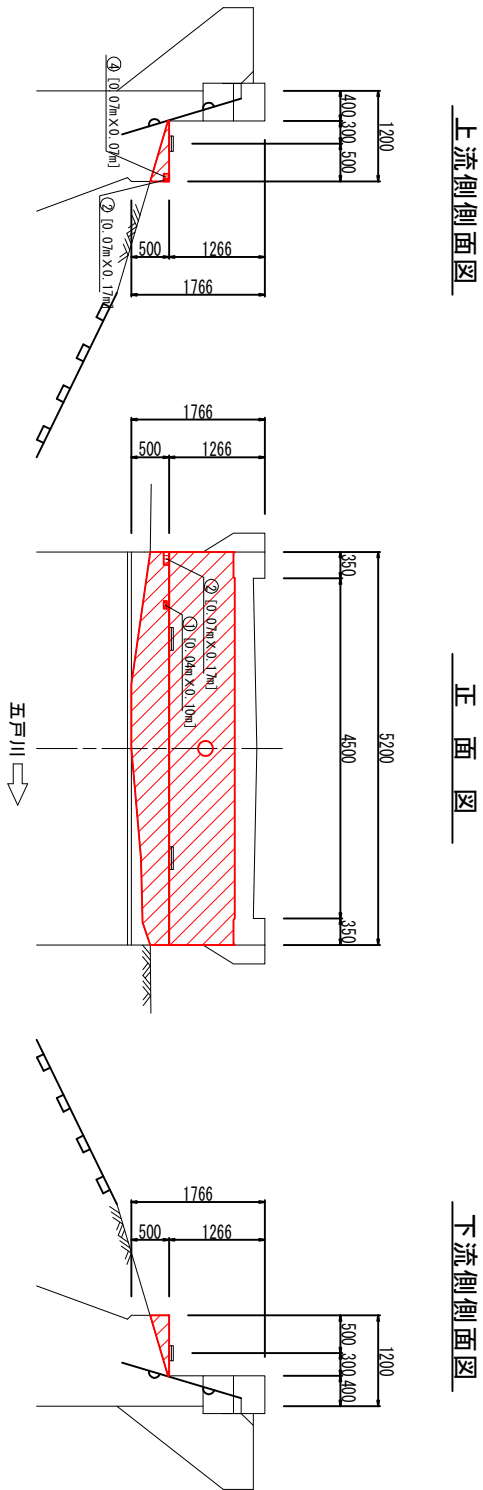


令和7年度	橋梁補修	工事
工事番号	第 31 号	
路線名	粒ヶ谷地六戸線	
河川		
施工箇所	三戸郡五戸町大字切谷内地区内	
下施工詳細図(2)	縮尺 各図記入	
図面番号	19 葉中 15	
五戸町		
青森県		

18  
29 粒ヶ谷地橋

凡 例	対 策 工 法
	断面修復工 (防錆処理あり)
	断面修復工 (防錆処理なし)
	表面保護工 (表面含浸工法)

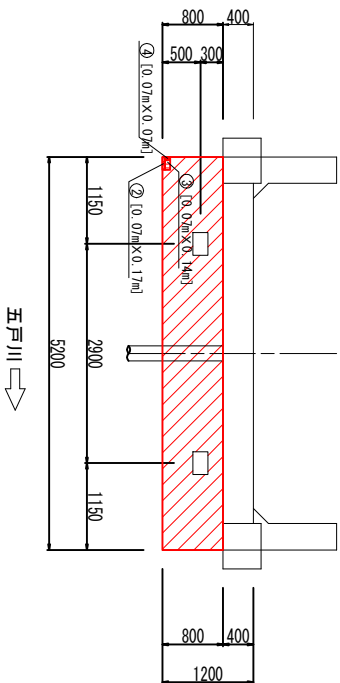


## 下部工補修図(2)

### 【断面修復工・表面保護工】

A 2 橋 台 S=1:50

### 平 面 図



### 表面保護工

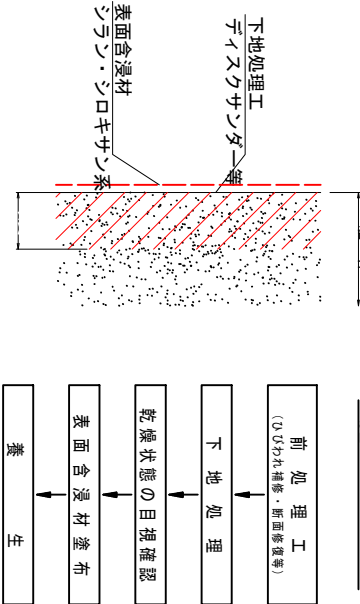
(表面含浸工法)

NO SCALE

### 表面保護工集計表

位置	平均高 (m)	長さ (m)	個数	控除面積 (m <sup>2</sup> )	塗布面積 (m <sup>2</sup> )	備考
径間 2 橋台胸壁	0.87	5.20	1	-0.031	4.493	控除 水道管
2 橋座面	0.80	5.20	1	-0.120	4.040	控除 支承X2基
2 橋台堅壁	0.40	5.20	1	-	2.080	
2 上流側面	0.13	0.80	1	-	0.104	
2 下流側面	0.13	0.80	1	-	0.104	
合 計				-0.151	10.821	

### 施工フロー



※ コンクリート表面は必ず乾燥 (表面水分率8%以下推奨) させて施工すること、塗布面積 = (幅×長さ-控除面積) × 個数

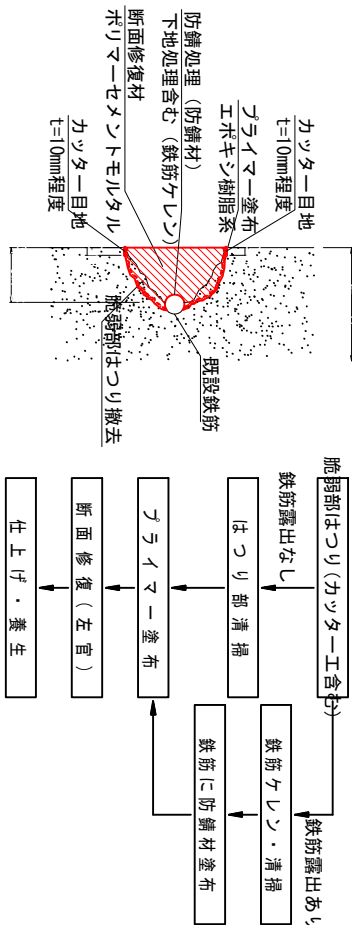
※ 垂直面への施工は、下部から上部に向かって塗布すること。

### 断面修復工

(左官工法)

NO SCALE

### 施工フロー



※ 露出鉄筋に発錆が確認される場合には、既設鉄筋の背面側までコンクリートをはつり防錆処理を行うこと。

※ 豆板やあばたなどの表面的な損傷については、施工の際に補修の要否を判断すること。

### 断面修復工集計表

位置	防錆処理の有無	幅 (m)	長さ (m)	平均深さ (m)	個数	表面積 (m <sup>2</sup> )	控除面積 (m <sup>2</sup> )	修復材 (m <sup>3</sup> )	備考
径間 1 ①	あり	0.04	0.10	0.05	1	0.004	-	0.0002	
1 ②	なし	0.07	0.17	0.03	1	0.012	-	0.0004	
1 ③	なし	0.07	0.14	0.03	1	0.010	-	0.0003	
1 ④	なし	0.07	0.07	0.03	1	0.005	-	0.0002	
合 計	防錆処理有					0.004	-	0.0002	
	防錆処理無					0.027	-	0.0009	

※ ここで、表面積 = 幅 × 長さ × 個数、修復材 = (表面積 - 控除面積) × 深さ

### 数量表

名称	寸法・規格	単位	数量	備考
断面修復工				
左官工法	防錆処理有り	m <sup>3</sup>	0.0002	
左官工法	防錆処理無し	m <sup>3</sup>	0.0009	
表面保護工				
表面含浸工法	シラソ・シロキサン系	m <sup>2</sup>	10.8	

### 注 記

- 1) 本図面は、既存資料および現地計測をもとに作成した図面である。
- 2) 施工する際は、再度現地検測を行って寸法等を確認すること。